

令和3年3月25日  
令和2年度第2回医療機器・  
再生医療等製品安全対策部会  
**資料 3-1-1**

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器 2020/4/1~2020/9/30)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	AASV. <a href="https://www.aasv.org/news/story.php?id=12436">https://www.aasv.org/news/story.php?id=12436</a>	2020年2月12日現在、米国10州の25カ所の屠畜場に併設された市場のブタから採取した5,033件の血清サンプルのうち、6.3%においてE型肝炎ウイルス(HEV)RNAが、40%においてHEV IgG(免疫グロブリン)が検出された。流行しているHEV遺伝子型は、人獣共通感染症遺伝子型3、グループ2であった。
2	E型肝炎	IDWR. 21:47(2019)2-2	2019年11月27日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2019年第47週に診断されたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):宮城県1例(不明)、埼玉県1例(不明)、国内(都道府県不明)1例(豚レバー)、国内、国外不明2例(不明2例)。また、Q熱報告は以下のとおりであった。感染地域(感染源):鹿児島県1例(ウシ)。
3	E型肝炎	IDWR. 21:48(2019)3-3	2019年12月4日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2019年第48週に診断されたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):北海道2例(生の貝類1例、不明1例)、茨城県1例(不明)、奈良県1例(猪鍋)、国内(都道府県不明)2例(鹿肉1例、不明1例)、韓国1例(生の牛肉)。
4	E型肝炎	IDWR. 22:4(2020)2-2	2020年1月29日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2020年第4週に診断されたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):北海道2例(牛生レバー1例、不明1例)、茨城県2例(不明2例)、岐阜県1例(不明)、大分県1例(猪肉)、国内(都道府県不明)2例(不明2例)、国内、国外不明2例(豚生レバー1例、不明1例)。2019年第4週から2020年第3週までに診断されたものの報告が遅れたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):鹿児島県1例(イノシシ)。
5	E型肝炎	IDWR. 22:7(2020)3-3	2020年2月19日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2020年第7週に診断されたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):群馬県2例(鹿肉及び猪肉1例、不明1例)、北海道1例(不明)、石川県1例(不明)、広島県1例(不明)、鹿児島県1例(猪肉)、国内(都道府県不明)2例(豚肉1例、不明1例)、国内、国外不明2例(不明2例)。また、2019年第7週から2020年第6週までに診断されたものの報告が遅れたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):東京都1例(生牡蠣等)、国内(都道府県不明)1例(不明)、国内、国外不明1例(牛生レバー)。
6	E型肝炎	IDWR. 22:8(2020)3-3	2020年2月26日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2020年第8週に診断されたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):北海道2例(不明2例)、福島県1例(不明)、東京都1例(猪肉)、神奈川県1例(不明)、新潟県1例(不明)、静岡県1例(不明)、国内(都道府県不明)1例(不明)、ドイツ1例(水)、国内、国外不明1例(不明)。また、2019年第8週から2020年第7週までに診断されたものの報告が遅れたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):国内(都道府県不明)1例(牛刺し肉)。
7	E型肝炎	ProMED-mail 20200301.7038310	米国の食肉処理場からサンプル採取されたブタの40%がHEVの血清陽性反応を示した。これらのブタについて、過去のHEV感染が示唆された。
8	H1N1インフルエンザ	Emerging Microbes & Infections. 8(2019)1456-1464	ロシアのブタにおいて、新規のH1N1豚インフルエンザウイルスが発見された。当該ウイルスは、古典的な豚インフルエンザウイルスとヒト季節性インフルエンザウイルスの再集合体であった。
9	口内炎	ProMED-mail 20191119.6786968	米国コロラド州で、ウシ1頭における水疱性口内炎ウイルスへの感染が新たに確認された。2019年、コロラド州で4頭目の症例となる。
10	コロナウイルス感染	WHOホームページ. <a href="https://www.who.int/docs/default-source/coronaviruse/situation-reports/20200125-sitrep-5-2019-ncov.pdf?sfvrsn=429b143d_8">https://www.who.int/docs/default-source/coronaviruse/situation-reports/20200125-sitrep-5-2019-ncov.pdf?sfvrsn=429b143d_8</a>	2019年12月31日、中国湖北省の武漢市で原因不明の肺炎のヒト症例が報告された。2020年1月、当該原因物質は新規コロナウイルスとして同定され、2020年2月11日、世界保健機関(WHO)は、当該ウイルスをCOVID-19と命名した。当該ウイルスはヒトからヒトへと伝播していると報告されている。2020年1月30日、WHOは、本感染症に関し「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言した。
11	ウイルス感染	International journal of infectious diseases. 89(2019)51-54	罹患したブタとの接触後に、両側性急性網膜壊死を合併したウイルス性脳炎及び肺感染症を呈した患者の症例を報告する。患者は44歳男性で、ブタの屠殺及び豚肉販売の仕事に従事していた。発熱と意識混濁のために来院し、脳脊髄液及び硝子体液の次世代シーケンシングにより、いずれの検体からも仮性狂犬病ウイルスが検出された。
12	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2020/02/05	2020年2月3日、スイスでウシ1頭において非定型BSE L型が確認された。
13	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20200206.6959146	2020年2月3日、スイスでウシ1頭において非定型BSE L型が確認された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
14	サルモネラ症	CDC ホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/salmonella/dublin-11-19/index.html">https://www.cdc.gov/salmonella/dublin-11-19/index.html</a>	米国の複数の州で発生した牛挽肉に関連するサルモネラダブリン感染のアウトブレイクは、2019年12月30日時点で収束している。
15	サルモネラ症	ProMED-mail 20200105.6872242	デンマークのサルモネラ感染者数例は、生又は調理が不十分なソーセージを摂取していた。2018年11月中旬、単相の <i>Salmonella</i> Typhimurium の発生が検出され、全国で少なくとも49例が感染していた。「メディスターソーセージ」と呼ばれる伝統的なデンマークの生の豚肉ソーセージが原因と考えられた。調査した8例中7例がメディスターソーセージを摂取していた。
16	レンサ球菌感染	BMC infectious diseases. 20(2020)223	中国におけるブタからヒトへのブタ連鎖球菌感染を呈した症例が2例報告された。2例とも、化膿性髄膜炎及び敗血症を発症し、血液培養及び脳脊髄液培養により、ブタ連鎖球菌の感染が特定された。1例は豚肉の販売を行っており、1例は傷口のある手で病死したブタと接触していた。
17	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20191028.6750510	カナダ西部及び米国中西部において、レンサ球菌感染によるブタの突然死が報告された。
18	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20191231.6865063	米国オハイオ州の集合飼育場と、ウィスコンシン州、ノースカロライナ州、フロリダ州及びテネシー州の食肉処理施設で、ブタにおいてレンサ球菌が検出された。同菌は、2019年初めにカナダの農場でも検出されている。
19	炭疽	ProMED-mail 20200116.6893687	ジンバブエのマシング州地区担当獣医は、ウシ46頭が死亡したとともに、Bikita地区の37例とGutu地区の27例が炭疽に感染したウシの肉を摂取し、炭疽と診断されたと述べ、炭疽のアウトブレイクを確認した。
20	炭疽	ProMED-mail 20200117.6895433	2020年1月17日時点、ジンバブエにおいて、今季、少なくともウシ177頭が炭疽で死亡し、炭疽で死亡したウシの肉を摂取した87例が各地の病院又は診療所で治療を受けている。
21	肺結核	MMWR. 68(2019)807-808	2017年5月、米国ミシガン州でウシ型結核菌による肺結核の罹患例が1例認められた。患者は定常的にシカ狩りを行っており、ウシ型結核菌に感染したシカの臓器取り出し処理時に、当該病原体にエアロゾル感染したと考えられた。当該地区では、狩りに関連した同感染症が過去にも2例報告されていた。
22	肺外結核	PLoS Negl Trop Dis. 13(9)(2019)e0007707	チュニジアでは、臨床的及び細菌学的に診断された肺外結核(EPTB)の症例の約77%が <i>Mycobacterium bovis</i> ( <i>M. bovis</i> ) が原因である。チュニジアのウシにおけるウシ結核を分析した研究は複数あるが、ヒトへの感染リスクを評価した研究はない。本研究において、 <i>M. bovis</i> ヒト分離株の遺伝的多様性を研究し、 <i>M. bovis</i> によるヒトEPTBの原因を解明し、チュニジアにおける <i>M. bovis</i> の分布及び個体群構造を調査した。
23	溶血性尿毒症症候群	Journal of Infection and Public Health. 12(2019)884-889	志賀毒素産生大腸菌(STEC) O26:H11は、重度の下痢及び溶血性尿毒症症候群の原因として世界で2番目に多い。全ゲノム配列決定(WGS)の実装により、非O157 STEC株の検出及び詳細な特性評価が強化された。本研究において、ウシから人畜共通感染の発生に続くSTEC O26株の特徴付けのために、WGSと表現型の血清型分類及びパルスフィールドゲル電気泳動を比較した。
24	ブルセラ症	ProMED-mail 20200516.7343814	2018年12月、米国ペンシルベニア州農務局及びペンシルベニア州保健局は、New Yorkのブルセラ症患者1例の報告を受けた。原因はウシブルセラ症予防に使用される <i>Brucella abortus</i> 弱毒化生ワクチンの菌株であるRB51感染であった。
25	リステリア症	WHO ホームページ. <a href="https://www.who.int/csr/don/16-september-2019-listeriosis-spain/en/">https://www.who.int/csr/don/16-september-2019-listeriosis-spain/en/</a>	スペイン アンダルシア州の保健当局は、冷蔵ローストポーク製品の摂取と関連したリステリア症のアウトブレイクを報告した。2019年7月7日から9月13日までに、スペインの5つの地域から本アウトブレイクに関連した感染確定例が222例報告された。
26	カンジダ感染	Emerg Infect Dis. 26(2020)626-627	米国疾病予防管理センターは、フランスにおける94歳のカンジダ真菌 ( <i>Candida bovina</i> ) 感染症例を報告した。カンジダ感染症は、免疫抑制薬や救命救急治療により、多くの国で数十年にわたって有病率が増加しており、新たなカンジダ種 ( <i>Candida auris</i> 等) の出現も報告されている。抗真菌薬の最小発育阻止濃度が高い可能性があるこれらの微生物による感染症を同定し治療することは極めて重要である。
27	旋毛虫症	Outbreak News Today. <a href="http://outbreaknewstoday.com/trichinosis-outbreak-affects-20-in-santa-fe-province-argentina-93944/">http://outbreaknewstoday.com/trichinosis-outbreak-affects-20-in-santa-fe-province-argentina-93944/</a>	アルゼンチンのサンタフェ州Nelson市において、少なくとも20例が、サラミ又は自家製ソーセージを摂取した後に旋毛虫症の症状を呈した。
28	感染	Arch Virol. 164(2019)2435-2449	2015年から2018年に中国のブタから採取した472検体について、PCRによりブタサーコウイルス2型(PCV2)及び3型(PCV3)の有無を検査した。感染率は、PCV2が50.0%、PCV3が13.3%、PCV2及びPCV3重感染が6.78%であった。PCV2が養豚業界に及ぼした多大な損害に鑑みて、PCV3の流行傾向についても厳重な監視を継続するべきである。本研究から、2015年から2018年の間に中国で確認されたPCV2及びPCV3の感染率、遺伝的多様性、分子疫学に関する情報が得られた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
29	感染	Microb Drug Resist. 25(2019)1382-1389	タイ中部のブタ及び養豚場労働者から、家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (LA-MRSA) を分離した。ブタから60株、ヒトから3株のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 分離株を回収し、解析した結果、ブタMRSA シークエンスタイプ (ST) 398 の存在と、MRSA ST9 における耐性遺伝子 <i>cfr</i> の存在が、タイで初めて確認された。ブタが感染源となりMRSA ST398がヒトに蔓延する可能性がある。蔓延軽減のためには、抗菌薬を慎重に使用するとともに、モニタリングプログラムの実施や養豚場の管理を行うべきである。LA-MRSAのヒト感染を防ぐために衛生状態の徹底と個人防護も必要である。
30	感染	Zoonoses and Public Health. 66(2019)861-870	ブタから養豚場労働者へのクロストリディオイデス・ディフィシル (CD) 感染における、施設環境表面の役割を評価した。2015年に、米国オハイオ州の13カ所の養豚場で検体を採取した結果、13カ所全ての養豚場からCDが回収され、445検体のうち42%が陽性であった。CDは、検体を採取した全ての養豚場区域から回収された。回収された3種類のリボタイプ (078、412、005) は、ヒト疾患への関与が判明している。CD回収率は、離乳舎と比較して、分娩舎及び休憩室で高かった。本研究から、養豚場内のヒト環境におけるCDの存在及び特性の知見が得られ、これらの環境区域が養豚場労働者及び施設全体へのCD感染にどのように関与するかが明らかになった。